

第1回
栃木県立がんセンター
希少がん講演会

(希少がんセンターKick Off講演会)

日時: 2020年12月17日(木) 17時40分～

場所: 講堂

(国立がん研究センターとOn Lineで繋がります。)

60名の人数制限がありますが、奮ってご参加ください。

プログラム

座長: 尾澤 巖 病院長

希少がん医療の課題と 始まった希少がん対策



川井 章 先生

国立がん研究センター中央病院
骨軟部腫瘍・リハビリテーション科
希少がんセンター

お問い合わせ先: 頭頸科 横島一彦 kyoktcc@gmail.com

希少がん医療の課題と始まった希少がん対策

川井 章

国立がん研究センター中央病院
骨軟部腫瘍・リハビリテーション科
希少がんセンター

希少がんは『概ね罹患率が人口10万人当たり6例未満で、かつ、数が少ないため診療・受療上の課題が他のがん種に比べて大きいもの』と定義されている。希少がんは、ただまれであるがゆえに、しばしば、正確な診断、適切な治療、最新の医学研究の恩恵に与ることが難しく、結果として、頻度の高いがんに比べて治療成績も不良であることが知られている。

このような希少がんに対して、現在、様々な角度からその診療、研究改善のためのアプローチが始まっている。2014年、国立がん研究センターに希少がんセンターが開設され、希少がん診療支援のための電話相談『希少がんホットライン』、WEBセミナー『希少がんMeet the Expert』、ホームページやSNSによる情報発信などが開始された。希少がん診療の大きな課題である病理診断に関しては、肉腫を対象にその実態把握のための研究が行われるとともに、日本病理学会が中心となって希少がん診断のための病理医育成事業が行われている。一方、新たな研究、治療開発から取り残されがちな希少がんに対する治療開発を推進することを目的として、レジストリーと臨床試験(治験)を組み合わせたMASTER KEY PROJECTや、希少がん患者由来がんモデルの作成も開始している。これら様々な試みが実を結び、希少がんにおける診療・受療上の課題がわずかでも解消され、その治療成績、患者満足度が頻度の高いがんのそれに近づくこと、願わくは凌駕することを願っている。